

令和 3 年 度

第 65 回 簿 記 検 定 試 験

1 級 (原価計算)

問 題 用 紙

(制限時間 1 時間30分)

(令和 3 年12月12日施行)

受験上の諸注意

- ・ 答案はすべて答案用紙に記入すること。
- ・ すべての答案用紙に受験番号を記入すること。
- ・ 赤字で記入すべきところは赤ペン、赤鉛筆を用いること。
- ・ その他答案の作成にあたっては、教科書に基づき日頃
学校で指導を受けている記帳の方法によって、正確・
迅速・整然と記帳すること。

佐賀県高等学校教育研究会商業部会主催

1 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現 金	製 品	第1工程半製品	/ 級 製 品
2 級 製 品	副 産 物	仕 損 品	作 業 く ず
外 注 加 工 賃	水 道 料	通 信 費	仕 損 費
売 上	雑 益	売 上 原 価	製 造
第1工程製造	第2工程製造	製 造 間 接 費	組 間 接 費
消 費 材 料	賃 率 差 異	本 社	工 場

- (1) 個別原価計算を採用している三養基工業製作所は、当月の経費の消費高について、次の経費支払表にもとづいて計上した。外注加工賃は製造指図書#1/用であり、当月消費高は各自で計算すること。

経 費 支 払 表					
費 目	当月支払高	前 月		当 月	
		前払高	未払高	前払高	未払高
外注加工賃	270,000	60,000	—	72,000	—
通 信 費	30,000	—	5,000	—	10,000

- (2) 個別原価計算を採用している大町製作所は、製造指図書#2の製品100個がすべて仕損じとなり、新たに製造指図書#2-1を発行して、代品を製造することになった。ただし、これまでに製造指図書#2に集計された製造原価は ¥300,000 であり、仕損品を ¥120,000 と評価し、残額は仕損費とした。

- (3) 工程別総合原価計算を採用している白石製造株式会社は、月末に工程別総合原価計算表を作成し、各工程の完成品原価を次のとおり計上した。なお、当月中に第2工程（最終工程）に投入した第1工程の完成品原価は ¥1,260,000 である。ただし、当社では第1工程の完成品原価をすべて第1工程半製品勘定に振り替えている。

第1工程 ¥1,120,000 第2工程 ¥1,580,000

- (4) 等級別総合原価計算を採用している神埼製作所において、1級製品600個と2級製品800個が完成した。この完成品の総合原価は ¥1,360,000 であり、等価係数は次の各製品1個当たりの重量を基準としている。

1級製品 300g 2級製品 200g

- (5) 会計期末にあたり、賃率差異勘定の残高を売上原価勘定に振り替えた。なお、賃率差異勘定の前月繰越高は ¥37,000（借方）であり、当月の賃金の実際消費高は予定消費高より ¥10,000 少なかった。

- (6) 工場会計が独立している小城工業株式会社の本社は、水道料 ¥50,000 を小切手を振り出して支払った。なお、このうち ¥343,000 の支払いは工場が使用した分であり、工場はこの通知を受けた。（工場の仕訳）

- (7) 個別原価計算を採用している唐津製作所は、発生がわずかであったため評価しないでおいた作業くずを ¥5,000 で売却し、代金は現金で受け取った。

2 武雄製作所は、組別総合原価計算を採用し、A組製品とB組製品を製造している。次の資料によって、組別総合原価計算表とB組製造勘定を完成しなさい。

ただし、i 組間接費 ¥430,400 は素材費を基準として配賦するものとする。

ii 素材は製造着手のときにすべて投入され、加工費は製造の進行に応じて消費されるものとする。

iii 月末仕掛品原価の計算は平均法による。

資 料

a. 当月製造費用

	A 組	B 組	組間接費
素 材 費	¥544,000	¥532,000	—
労 務 費	¥180,000	¥220,000	¥280,000
経 費	¥ 67,400	¥179,400	¥150,400

b. 生産データ

	A 組	B 組
月初仕掛品数量	300個（加工進捗度50%）	200個（加工進捗度50%）
当 月 投 入	950個	1,100個
合 計	1,250個	1,300個
月末仕掛品数量	250個（加工進捗度40%）	100個（加工進捗度40%）
完 成 品 数 量	1,000個	1,200個

3 (1) 次の各文の（ ）のなかに、下記の語群のなかから、もっとも適当なものを選び、その番号を記入しなさい。

a. 製造原価は、材料費・（ア）・経費の3つの（イ）によって構成される。

b. 総合原価計算において、主産物の製造工程から必然的に発生する物品を（ウ）という。これを、見積売却価額などにもとづいて評価した場合は、主産物の（エ）から控除する。

〔語群〕

- | | | | |
|--------------|----------|------------|------------|
| 1. 作 業 く ず | 2. 加 工 費 | 3. 原 価 要 素 | 4. 製 造 原 価 |
| 5. 総 原 価 費 用 | 6. 販 売 費 | 7. 副 産 物 | 8. 労 務 費 |

- ③ (2) 吉野ヶ里製作所における下記の勘定記録と資料により、次の金額を求めなさい。ただし、会計期間と原価計算期間は一致しているものとする。なお、製造間接費は予定配賦しており、製造間接費配賦差異は売上原価に振り替える。

ア. 賃金の消費高 イ. 外注加工賃の消費高 ウ. 製造間接費の実際発生額 エ. 売上原価

製 造		売 上 原 価	
前期繰越 615,000	製 品 ()	製 品 ()	製造間接費配賦差異 24,000
素 材 ()	次期繰越 472,000	()	損 益 ()
賃 金 3,159,000			
外注加工賃 ()			
製造間接費 1,778,000			
()	()		

資 料

- ① 素 材 期首棚卸高 ¥486,000 当期仕入高 ¥1,835,000 期末棚卸高 ¥435,000
 ② 工場消耗品 期首棚卸高 14,000 当期仕入高 213,000 期末棚卸高 28,000
 ③ 賃 金 前期未払高 594,000 当期支払高 3,762,000 当期末未払高 622,000
 ④ 給 料 当期消費高 480,000
 ⑤ 外注加工賃 前期前払高 74,000 当期支払高 233,000 当期前払高 56,000
 ⑥ 電 力 料 当期支払高 115,000 当期測定高 124,000
 ⑦ 減価償却費 当期消費高 320,000
 ⑧ 製 品 期首棚卸高 525,000 期末棚卸高 460,000

- ④ 個別原価計算を採用している佐賀製作所の下記の取引（一部）によって、次の各問いに答えなさい。

- (1) 12月中の取引の仕訳を示しなさい。
 (2) 第2製造部門費勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。なお、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
 (3) 部門費振替表を相互配賦法によって完成しなさい。
 (4) A製品（製造指図書#1）の原価計算表を完成しなさい。

ただし、i 前月繰越高は次のとおりである。

素 材 800個 @¥2,400 ¥1,920,000

工場消耗品 350個 @¥160 ¥56,000

仕 掛 品（製造指図書#1） ¥7,870,000（原価計算表に記入済み）

- ii 素材の消費高の計算は先入先出法、工場消耗品の消費数量の計算は棚卸計算法によっている。
 iii 賃金の消費高の計算には、作業時間/時間につき ¥1,380 の予定賃率を用いている。
 iv 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を基準として予定配賦している。

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予定額	¥19,845,000	¥14,300,000
年間予定直接作業時間	40,500時間	32,500時間

- v 製造間接費勘定を設けている。

取 引（一部）

12月 5日 素材および工場消耗品を次のとおり買い入れ、代金は掛けとした。

素 材 1,600個 @¥2,460 ¥3,936,000

工場消耗品 900個 @¥160 ¥144,000

6日 B製品（製造指図書#2）の注文を受け、素材1,700個を消費して製造を開始した。

24日 賃金を次のとおり小切手を振り出して支払った。

賃金総額 ¥9,640,000

うち、控除額 所得税 ¥780,000 健康保険料 ¥426,000

31日 ① 工場消耗品の月末棚卸数量は200個であった。よって、消費高を計上した。（間接材料）

② 当月の賃金予定消費高を次の作業時間によって計上した。ただし、消費賃金勘定を設けている。

製造指図書#1 3,500時間 製造指図書#2 2,800時間 間接作業 900時間

③ 健康保険料の事業主負担分 ¥426,000 を計上した。

④ 当月の製造経費消費高を計上した。

電 力 料 ¥612,000 保 険 料 ¥57,000

減価償却費 ¥519,000 雑 費 ¥29,000

⑤ 当月の直接作業時間は次のとおりであった。よって、製造部門費を予定配賦した。

		第1製造部門	第2製造部門
直接作業時間	製造指図書#1	1,200時間	2,300時間
	製造指図書#2	2,600時間	200時間

⑥ 製造間接費を次のように各部門に配分した。

第1製造部門 ¥1,504,000 第2製造部門 ¥856,000

動力部門 ¥378,000 修繕部門 ¥315,000

⑦ 補助部門費を次の配賦基準によって各製造部門に配賦した。

	配 賦 基 準	第1製造部門	第2製造部門	動力部門	修繕部門
動力部門費	kW数× 運転時間数	30kW× 2,400時間	15kW× 3,200時間	—	10kW× 600時間
修繕部門費	修繕回数	9回	9回	3回	—

⑧ A製品（製造指図書#1）200個が完成した。

⑨ 当月の賃金実際消費高 ¥9,950,000 を計上した。

⑩ 賃金の予定消費高と実際消費高との差額を、賃率差異勘定に振り替えた。

⑪ 第1製造部門費および第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替えた。

令和 3 年 度

第 65 回 簿 記 検 定 試 験

1 級 (原価計算)

答 案 用 紙

(制限時間 1 時間30分)

(令和 3 年12月12日施行)

佐賀県高等学校教育研究会商業部会主催

1

	借 方	貸 方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		
(5)		
(6)		
(7)		

受験番号	①	②	③	④	総得点

2

組別総合原価計算表
令和〇年6月分

摘 要	A 組	B 組
組 直 接 費 素 材 費		
加 工 費		
組 間 接 費 加 工 費		
当 月 製 造 費 用		
月初仕掛品原価 素 材 費	156,000	248,000
加 工 費	63,000	45,000
計		
月末仕掛品原価 素 材 費	140,000	
加 工 費		21,200
完 成 品 原 価		
完 成 品 数 量	1,000個	1,200個
製 品 単 価	¥	¥

B 組 製 造

前 月 繰 越	293,000	() ()
素 材 ()		次 月 繰 越 ()
労 務 費 ()		
経 費 ()		
() ()		
()		()

3

(1)	ア		イ		ウ		エ	
		ア. 賃 金 の 消 費 高				イ. 外注加工賃の消費高		
		¥				¥		
(2)		ウ. 製造間接費の実際発生額				エ. 売 上 原 価		
		¥				¥		

受験番号	②	③

4

(1)

		借 方	貸 方
/2月5日			
6日			
24日			
3/日	①		
	②		
	③		
	④	製造間接費 1,217,000	電力料 612,000 保険料 57,000 減価償却費 519,000 雑費 29,000
	⑤		
	⑥		
	⑦		
	⑧		
	⑨		
	⑩		
	⑪		

受験番号

④(1)

4

(2)

第 2 製造部門費

(3)

部 門 費 振 替 表

相互配賦法

令和〇年 / 2月分

部 門 費	配 賦 基 準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第1部門	第2部門	動力部門	修繕部門
部 門 費 合 計		3,053,000	1,504,000	856,000	378,000	315,000
動 力 部 門 費	kW数×運転時間数				—	
修 繕 部 門 費	修 繕 回 数					—
第1次配賦額						
動 力 部 門 費	kW数×運転時間数					
修 繕 部 門 費	修 繕 回 数					
第2次配賦額						
製造部門費合計						

(4)

製造指図書# /

原 価 計 算 表

直接材料費	直接労務費	製 造 間 接 費				集 計	
		部 門	時 間	配賦率	金 額	摘 要	金 額
5,065,000	2,070,000	第1	1,500	490	735,000	直接材料費	
						直接労務費	
						製造間接費	
						製造原価	
						完成品数量	200個
						製品単価	¥

④(2)×3×4)

4

(2) 第2製造部門費

12/31 製造間接費	856,000	12/31 製造	1,100,000
諸口	306,000	製造部門費配賦差異	62,000 ※
	1,162,000		1,162,000

(3) 部門費振替表
令和〇年/2月分

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門	
			第1部門	第2部門	動力部門	修繕部門
部門費合計		3,053,000	1,504,000	856,000	378,000	315,000
動力部門費	kW数×運転時間数	378,000	216,000	144,000	—	18,000
修繕部門費	修繕回数	315,000	135,000	135,000	※45,000	—
第1次配賦額		693,000	351,000	279,000	45,000	18,000
動力部門費	kW数×運転時間数	45,000	27,000	18,000		
修繕部門費	修繕回数	18,000	9,000	9,000		
第2次配賦額		63,000	36,000	27,000		
製造部門費合計		3,053,000	1,891,000	1,162,000		

(4) 製造指図書# / 原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費				集計	
		部門	時間	配賦率	金額	摘要	金額
5,065,000	2,070,000	第1	1,500	490	735,000	直接材料費	5,065,000
※	4,830,000	第1	1,200	490	588,000	直接労務費	6,900,000
	6,900,000	第2	2,300	440	1,012,000	製造間接費	2,335,000
					2,335,000	製造原価	14,300,000
						完成品数量	200個
						製品単価	※ 71,500 ※

④(2)×(3)×(4)
※ 4点×4=16点

令和3年度
第65回簿記検定試験
1級(原価計算)

採点基準

(令和3年12月12日施行)

1

	借方	貸方
(1)	製造 製造間接費 258,000 35,000	外注加工賃 258,000 通信費 35,000
(2)	仕損品 120,000 仕損費 180,000	製造 300,000
(3)	第1工程半製品 1,120,000 第2工程製造 1,260,000 製品 1,580,000	第1工程製造 1,120,000 第1工程半製品 1,260,000 第2工程製造 1,580,000
(4)	1級製品 720,000 2級製品 640,000	製造 1,360,000
(5)	売上原価 27,000	賃率差異 27,000
(6)	水道料 343,000	本社 343,000
(7)	現金 5,000	雑益 5,000

①	②	③	④	総得点
4点×7=28点	※ 3点×5=15点 ◎ 1点×1=1点	(1) 2点×4=8点 (2) 2点×4=8点	※ 4点×10=40点	100点

2

組別総合原価計算表

令和〇年6月分

摘 要	A 組	B 組
組 直 接 費 素 材 費	544,000	532,000
加 工 費	※ 247,400	399,400
組 間 接 費 加 工 費	217,600	212,800
当 月 製 造 費 用	1,009,000	1,144,200
月初仕掛品原価 素 材 費	156,000	248,000
加 工 費	63,000	45,000
計	1,228,000	1,437,200
月末仕掛品原価 素 材 費	140,000	※ 60,000
加 工 費	※ 48,000	21,200
完 成 品 原 価	1,040,000	1,356,000
完 成 品 数 量	1,000個	1,200個
製 品 単 価	◎ ¥ 1,040	¥ 1,130

B 組 製 造

前 月 繰 越	293,000	(B 組 製 品) (1,356,000) ※
素 材 (532,000)		次 月 繰 越 (81,200)
労 務 費 (220,000)		
経 費 (179,400)		
※ (組 間 接 費) (212,800)		
(1,437,200)		(1,437,200)

3

(1)	ア	8	イ	3	ウ	7	エ	4
	ア. 賃 金 の 消 費 高				イ. 外注加工賃の消費高			
	¥ 3,790,000				¥ 251,000			
(2)	ウ. 製造間接費の実際発生額				エ. 売 上 原 価			
	¥ 1,754,000				¥ 7,258,000			

②	③
※3点×5=15点	(1)2点×4=8点
◎1点×1=1点	(2)2点×4=8点

4 (1)

	借 方	貸 方
1/2月5日	素 材 3,936,000 工 場 消 耗 品 144,000	買 掛 金 4,080,000
6日	製 造 4,134,000	素 材 4,134,000 ※
24日	賃 金 9,640,000	所得稅預り金 780,000 健康保險料預り金 426,000 ※ 当 座 預 金 8,434,000
①	製 造 間 接 費 168,000	工 場 消 耗 品 168,000 ※
②	製 造 8,694,000 製 造 間 接 費 1,242,000	消 費 賃 金 9,936,000
③	製 造 間 接 費 426,000	健 康 保 險 料 426,000
④	製 造 間 接 費 1,217,000	電 力 料 612,000 保 險 料 57,000 減 価 償 却 費 519,000 雑 費 29,000
⑤	製 造 2,962,000	第1製造部門費 1,862,000 ※ 第2製造部門費 1,100,000
3/日	第1製造部門費 1,504,000 第2製造部門費 856,000 動力部門費 378,000 修繕部門費 315,000	製 造 間 接 費 3,053,000
⑦	第1製造部門費 387,000 第2製造部門費 306,000	動力部門費 378,000 ※ 修繕部門費 315,000
⑧	製 品 14,300,000	製 造 14,300,000
⑨	消 費 賃 金 9,950,000	賃 金 9,950,000
⑩	賃 率 差 異 14,000	消 費 賃 金 14,000 ※
⑪	製造部門費配賦差異 91,000	第1製造部門費 29,000 第2製造部門費 62,000

④(1)
※4点×6=24点